

日本一暮らしやすい埼玉

ぶぎん地域経済研究所 専務取締役／チーフエコノミスト 大西 浩一郎

埼玉県は、来年度からの県政運営の基礎となる次期5か年計画を策定しており、この夏、そのたたき台となる「埼玉県5か年計画大綱」を公表しました。基本理念は「あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる『日本一暮らしやすい埼玉』」であり、時代の潮流や埼玉県の強みを踏まえた上で、3つの将来像、9つの政策、51の分野別施策を設定しています。地域の実情を踏まえた地域別施策も纏められており、どれも興味深い内容なのですが、特に筆者の眼を引いたのは、それらの政策・施策の前提として新たに整理された「埼玉県の強み」です。以下のように、非常に明快な内容となっています。

さっそくみていきますと、**第一に「充実した交通ネットワーク」**です。埼玉県は関東1都6県、約4,400万人の巨大マーケットの中央に位置し、東日本全体を結ぶ鉄道と道路の交通の要衝ですから、自ずと企業活動や人の動きが活発です。**第二に「活力ある経済・市場規模」**です。全国有数の豊富な労働力を有するとともに、企業数は全国5位、かつ直近10年間の本社転入超過数も全国2位です。大規模な消費地と生産地を併せ持つ経済優位性を備えているとの指摘に異論の余地はありません。

そして、**第三に「都市と自然が調和した暮らしやすさ」**です。都市と田園などの自然が共存する多様な地域特性を持ち、子育て世代の転入超過数は全国1位を誇るなど、誰もが安心して快適に暮らし続けることができるとしています。県内いたるところに水辺があり、秩父連山の豊かな自然がある点も強力な「推しどころ」だと思います。

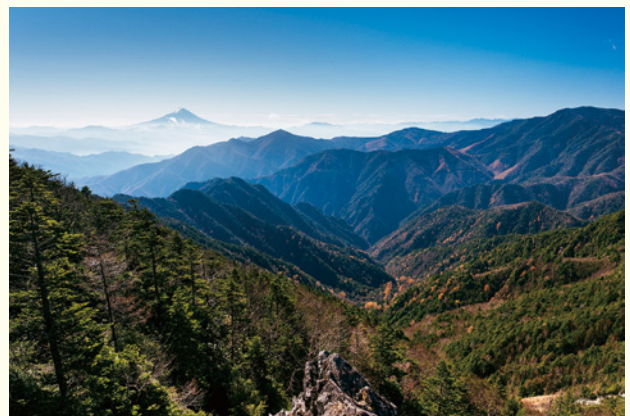


県内いたるところにある水辺

第四に「多彩な地域資源」で、全国有数のスポーツ・イベント施設や伝統的な酒造りなど数多くの貴重な文化遺産などが挙げられています。次ページの「埼玉の隠れた銘品百選」をみるにつけ、「東京の延長線と思いきや実は違って、特徴があって美味しいものが沢山ある」と筆者は毎月感じています。

以上が「埼玉の強み」として挙げられた4点ですが、前2者が経済成長の伸び代に関するものである一方、後2者は生活環境、自然環境の豊かさなど、幸福度に関するものである点に注目したいと思います。といいますのも、失われた30年を脱しつつあるわが国経済は、これから①経済成長を進めて国際的地位を取り戻すことと、②人々の幸福度、ウェルビーイングを高めることの両方を同時に追い求めていく必要がありますが、この2つの方向性と「埼玉の強み」の構成が丁度重なるのです。

高市政権が掲げる戦略17分野の育成施策に沿って、世界で勝てる産業分野を徹底的に伸ばすと同時に、人々が社会の温かみや生活の質の高さを実感できる環境を作る、つまりバランスこそがこれからの日本経済の課題であると思います。そうした眼で見ると、今回の「埼玉県の強み」は非常にバランスが取れており、したがって埼玉県こそが、これからの日本が目指すべき姿に無理なく近づける恵まれた場所であると言えるようにも思います。改めて、次期5か年計画の基本理念は「日本一暮らしやすい埼玉」です。一見すると遥か遠い理想のようですが、筆者の眼には合理性を伴ったゴールに映っています。



雄大な秩父連山から富士山を望む